

北海道道央地区勤労者山岳連盟機関紙

連盟だより



発行日：2015年2月1日 第261号 / 発行：北海道道央地区勤労者山岳連盟機関紙部 / 責任者：長水 洋
連絡先：〒001-0010 札幌市北区北10条西1丁目和幸荘 / 電話：011-742-7268 (FAX 併用)



重要

第38回道央地区勤労者山岳連盟総会の日程・会場が**変更**します
日時：2015年3月15日(日) 会場：エルプラザ大研修室

美瑛富士トイレ管理連絡会が開
かれました

北海道で唯一、避難小屋と野営地が有るのにトイレが無く荒廃が激しい事から美瑛富士避難小屋付近に官・民が協力してトイレブースを作り・維持管理する会が設立されます。

一月十五日(木)には、第一回・設立準備会が行われ、連絡会設立趣旨・連絡会規約・携帯トイレブース点検パトロール作業マニュアル等の確認が行われました。

設立総会は三月十四日(土) 十三時三十分より「かでの2・7」で行われます。

第一回・設立準備会の参加団体は、

北海道山岳連盟・札幌山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道道央地区勤労者山岳連盟・北海道道北地区勤労者山岳連盟・北海道山岳ガイド協会・日本山岳会北海道支部・白老山岳会・環境省北海道地方環境事務所・山のトイレを考える会です。

初めてのヒマラヤ

バビシエマウンテンクラブ

大井戸 美穂

バビシエに入った最初から、佐藤代表は「ヒマラヤに行こう、俺が連れて行けるのはもう何回もないぞ」と言い続けていました。

まだ初心者の私は、冬山の経験もそこそこでヒマラヤだなんて、順番があるのではないかと思いましたが。実現できると思っていなかったため、暫く人には話していませんでした。



そして、まさかの会社の行ってよしの返事。自分の力で行く機会を得たとは言えません。色んな力が私をヒマラヤに向かわせてくれたなと思います。

高度順応のための初日ヒルクライムの帰り道、周りのペースに合わせて無理をして歩きました。バッテリーに着く頃には、頭痛、寒気の高山病になりました。すぐ寝てしまおうとしましたが、頭が痛くて眠れなかった。ふと、真向法のことを思い出し、実践すると十五分程でケロっと治りました。多少辛い時はあったけれど、その後も隊員に大きな障害が出ることはなく、隊長の組んだ高度順応は機能しました。さすが隊長！改めて思いました。

高所に行くと食事をたいていの人は食べられなくなると聞いていました。ネパール人が毎食食べるダルバートが嫌になる人もいます。

いざやってみれば、隊員はよく食べていました。私も朝から常にガツツリ食べる為、パンの時はすぐにお腹が空いてしまいました。苦手どころかダルバートは私のエネルギー源となりました。



隊長はその後「とにかくよく食う奴らだ」と語り続けていました。

ネパールという国。テレビで出てくるのはエベレスト街道などの山の風景。

カトマンズに足を入れると、埃、乾燥した空気、非衛生的な環境はさすがに苦しかった。穴ポコだらけの道、無法状態に思える交通事情、騒音、水も電気も日常的に止まる不便な環境も慣れてしまえば、既に懐かしく感じられるばかりです。

そしてネパールで出会った日本人。ネパール人のためのキノコ生産施設を十年かけて作る途中だ

と語ってくれました。海外で活躍する日本人の誇らしさを感じさせてくれる人でした。

そんなおまけもあるネパールヒマラヤ登山、普通に経験出来ないことをたくさんしました。

これからの自分の人生にこれらの経験を生かしていきたいと思えます。

私のネパール登山

古田 雄一

昨年三月の道央連盟総会で今年度の海外委員会では海外高所登山学校を開催するとの発表があった。かねてから一度は本格的な高所登山に憧れていたこの機会を逃すと一生登れないと思い五月の募集開始にはすぐ応募した。

私のヒマラヤ歴は過去二回トレッキングを経験している。一回目は二〇〇四年の十月〜十一月にエベレスト街道の終点カラパタール(五〇五〇)まで一人トレッキングを行った。カトマンズの現地ガイド会社「ヒマラヤンアクティビティーズ」を使いガイド一名とポーター一名の三人旅であった。天候に恵まれエベレストの日の出を見た。

最後の五〇〇〇(五)からカラパタールの頂上までの四五〇(五)の登りがとても辛かったのを憶えている。

二回目は二〇〇九年の三月にアンナプルナ内

院、アンナプルナベースキャンプ、通称ABCまでの三人パーティ、春なのでシャクナゲの花盛りを見ながらのトレッキングでした。ジヌーで温泉に入り、マチャプチャレの尻尾を見ながら雪のABC小屋(四二三〇)まで往復十二日間の旅でした。高度が低いのでゆっくり登れば高度順応も必要なし、特に苦しいところはなかった。

さて今回の『北海道カンチエン・ピーク遠征隊』は佐藤信二隊長、上田康博副隊長、以下隊員八名の参加である。

五月〜十月まで月一回の勉強会を開催し医療(主に高山病)、装備、食料などを検討した。十一月には上ホロカメットックでのダンラインとユマール使用の登攀訓練及び北西稜の登攀、十二月



カンチエン・ピーク

には赤岩でのアイゼンを付けての岩登攀訓練を行った。

十二月二十日大荷物を背負い千歳空港に集合、関西空港、広州で乗り換えて、カトマンズには当日夜の十一時に到着した。その晩はエージェントの「BOCHI-BOCHI TREK」の社長宅に宿泊した。

ルクラ(二八四〇)からトクトク(二七六〇)までの道は日差しが強く暖かく、歩いていても楽しい道のである。二十三日と二十四日はトクトクからコンデ(四二五〇)を目指し高度順応をおこなった。高度を上げるとエベレストとローツェが見えてくる。二十五日はナムチェバザール(三四四〇)まで。宿泊する宿「バツティ」の食堂はメニューが豊富、一人一人違うメニューを注文しシェアして味を確かめた。

その後はポルツティンガ、マチュエルモ(四四七〇)宿泊、二十八日は近くの尾根の五〇〇〇(五)まで高度順応、途中エベレスト、ローツェ、チョーオユー、目標の山カンチエン・ピークも姿を現す。

マチュエルモのバツティには可愛い女の子がいた。Pusapa Bahal (プспа、ダハール)ちゃん五歳ほどかな、中島隊員と良く遊んでいた。

二十九日はゴッキョ(四七五〇)へ三十日はゴッキョピーク(五三二五)まで高度順応してからタクナ(四七〇〇)へ氷河を横断し移動。ゴッキョピークは快晴、さすがエベレストの展望台だけあり、八〇〇〇(八)の山々の大展望が見られた。三十一日はタクナで休養日、佐藤、上田、古

田の三人はバッテリーで日向ぼっこして休養、他の七人はベースキャンプまで偵察に出かけた。年が開けて一月一日ベースキャンプへ出発、天候が悪い！この日からサラサラと降雪状態となる。ベースキャンプ位置を移動、さらに一時間登って五三〇〇m地点に設置した。隊員テント三張とシェルパテント一張。ここで緊急事態判明 食料が無い！！ ルクラではポーターに預けた食料がベースキャンプでは無い！！結局シェルパ食料を分けてもらった。

五三〇〇mでの宿泊は辛い。テントの中でラーメンを作ると酸素不足となり常に換気に気をつけなければならぬ。寝ると呼吸が浅くなり、呼吸が苦しくなる。私は起きてマッコウ法という呼吸法をつづけた。時々テントの窓から外部に顔を出して呼吸した。

一晩中これをつづけた。呼吸が苦しくて死ぬかと思った！

二日の朝は積雪七〇センチもあり設置したダンラインも雪の下、登攀中止の判断をくだす。

テントを撤収してタクナへ下山、その後四日間かけてカトマンズまで下山

久しぶりに日本料理店「桃太郎」で日本食を食べた。天丼と大根下ろし、とても美味しかった。

八日は十一日はカトマンズ観光、丘の上の寺院「スワヤンプナート」へ四〇分歩いて到着、薄く開いた巨大な世界を見る目を見物した。

十一日の夜十一時に中国南方航空の旅客機に乗り広州へ、そして関空へ、十二日午後五時二十五

分に千歳へ到着した。

今回の登山はピークに立てなかったことは残念であるが、その登山のプロセスは大変勉強になったし楽しめた。登る山を決めるまでの情報収集、高山病対策、登攀訓練、

装備の準備調達（テント、ダンラインなどの共同装備はカトマンズのぼちぼちトレックに保管してあった）。信頼できるシェルパの手配、ポーターの手配、ネパール観光省への登山届けなど。

登山隊を組織するうえで一番大事なことは隊員の協調性かな？二十四日間を一緒に過ごすうえで



コンデでの高度順応

楽しくなければやって

いけない！今回はすばらしい登山隊であった。隊長の佐藤さん（信

さん）副隊長の上田さ

ん、古田、二瓶さん、

小野さん（由紀ちゃん）

大井戸さん（美穂ちゃん）

大辻さん（栄ちゃん）

富田さん（真末ちゃん）

馬場さん（晶悟くん）

中島さん（蛍ちゃん）、若い隊員は

みんなちゃんづけで呼び合っていた。

バッテリー（高所の宿

では一つの料理を全員

でシェアしながら注文した。残った料理は

晶悟君の偉大な胃袋へ

消えていった。

全国の勤労者山岳連

盟では海外登山は低調

と聞いている。北海道

の海外登山の火を消す

ことなく、この海外高

所登山教室の継続を

願っている。

願っている。

北海道・山の店 秀岳荘

<http://www.shugakuso.com>

(北大店) 札幌市北区北12条西3丁目 営業時間 AM10:00～ PM7:00 TEL 011(726)1235 ● 月曜定休
 (旭川店) 旭川市忠和5条4丁目 営業時間 AM10:00～ PM7:00 TEL 0166(61)1930 ● 月曜定休
 (白石店) 札幌市白石区本通1丁目 営業時間 AM10:30～ PM7:30 TEL 011(860)1111 ● 水曜定休